

備前市事務事業評価表

事務事業名	じん肺患者見舞金事業		コード	02-02-05-02
			担当課・係	保健課・健康係
			担当者	白髭 由美子
事業実施期間	昭和49年10月1日～		電話	64-1820
総合計画 事業（政策）体系	大項目(基本目標)	健康でやさしさあふれるまちづくり		
	中項目(基本施策)	健やかで生き生きしたまちづくり		
	小項目(施策)	結核・じん肺（健康教育の推進）		

事業について	
目的 (何のために)	じん肺患者に対して、療養を見舞うためのじん肺患者見舞金を支給し、さらに今後の健康管理の推進に努める。
対象 (誰・何を対象に)	・じん肺管理区分4の決定を受けている者 ・じん肺管理区分2又は3でじん肺と合併した肺結核、その他じん肺の進展経過に応じてじん肺と密接な関係にある合併症があり、療養を要すると決定された者
内容	月額1,300円の見舞金の支給、健康増進講習会の開催

事業の結果			
実施項目	17年度 回数など (単位)	18年度 回数など (単位)	回数など (単位)
見舞金支給人数	672人	677人	
講習会開催回数	1回	1回	
講習会参加人数	180人	126人	

事業費 (単位：千円)	事業費		財源		事業費		財源	
	直接事業費	10,697	国庫補助金等	3,369	直接事業費	10,914	国庫補助金等	3,447
	人件費	2,415	受益者負担		人件費	2,275	受益者負担	
	合計	13,112	市債	9,743	合計	13,189	市債	9,742
			一般財源等				一般財源等	0

必要人員	0.30人	0.25人	
結果指標名	講習会参加人数	講習会参加人数	
結果指標量	180	126	
単位	人	人	
対前年比	-	70.00%	0.00%
活動にかかるコスト	13,112,000円	13,189,000円	
単位当たりコスト	72,844円	104,675円	
結果指標名	見舞金支給人数	見舞金支給人数	
結果指標量	672	677	
単位	人	人	
対前年比	-	100.74%	0.00%
活動にかかるコスト	13,112,000円	13,189,000円	
単位当たりコスト	19,512円	19,482円	

事業の成果			
どのような成果を得ようとしているか	高齢化に伴う体力低下や合併症の発症を予防し、現在の健康状態を維持する。		
成果指標名	講習会参加率(%)	式又は説明	参加人数/見舞金支給人数(対象者)
	17年度	18年度	
成果指標量	27	19	
対前年比	-	70.37%	0.00%
到達目標値	30	到達目標年度	平成20年度

事業の目的、対象、内容を考えながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価		(平成18年度事業)	
目的・対象・内容の妥当性評価	目的の妥当性	<input type="checkbox"/> 関係法令等で目的が定められており妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化しつつある <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である 関係法令等： 備前市じん肺見舞金条例	妥当性評価<A~E> C
	対象の妥当性	<input type="checkbox"/> 受益者の拡大を検討する余地がある <input type="checkbox"/> 受益者の縮小を検討する余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 現在の対象者は妥当である	耐火物等の市の主要産業に起因するじん肺患者に対して、その療養を見舞い、健康管理の推進を支援することは、市として実施すべき事業である。今後、月額1,300円の個人への見舞金支給については、相談事業や健康増進の啓発のために必要な経費に見直しを検討する必要がある。
	市民ニーズの妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民、団体などから要望・要請のある事業である <input type="checkbox"/> 市民に概ね好評な事業である <input type="checkbox"/> 公共秩序の維持、行政の適正運営に必要な事業である	
	市の関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 国・県又は関係法令で定められている事業である <input type="checkbox"/> 民間に類似サービスがある <input checked="" type="checkbox"/> 本市が関与すべき事業である <input type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の影響は大である	
コストの効率化	<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは増加傾向にある <input type="checkbox"/> コスト削減の努力をしている <input type="checkbox"/> できる限り民間活力を利用している <input type="checkbox"/> 受益者負担額は適正である	効率性評価<A~E> C	
効率性の評価	手段の最適化	<input type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で確認・見直しを行っている <input checked="" type="checkbox"/> 他に有効な代替手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 事業は他部署と密接な連絡調整を行っている	高齢化に伴い、合併症を併発し新規に認定を受ける患者と、死亡等で資格喪失する患者が近い数であり、一人当たりのコストは、ほぼ横ばいである。なお、市は、見舞金の1/3に相当する額の負担を関係企業団体から受けている。
	職場の効率化	<input checked="" type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている <input type="checkbox"/> 事業に関するOJT（職場研修）は行われている <input type="checkbox"/> 事業の進行管理を定期的に行っている <input type="checkbox"/> 事業実施について職員の意見・要望が反映されやすい	
	目的達成度	<input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している	
有効性の評価	成果向上の可能性	<input type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである <input checked="" type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある	高齢化や体調により、講習会への参加に限られた人になっている。また、18年度は実施場所の都合により、参加人数を制限せざるを得なかった。今後、患者本人のみでなく、家族等にも参加を呼びかけることができるような講習会を企画し、疾病に対する理解を深め、健康管理の推進へとつなげたい。
	市民参画度	<input type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している <input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映している <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている	

平成19年度状況		説明
<input type="checkbox"/> 重点化している <input checked="" type="checkbox"/> 前年度と同様に継続している <input type="checkbox"/> 見直し継続している <input type="checkbox"/> 事業を縮小している	<input type="checkbox"/> 休止している <input type="checkbox"/> 他の事業と統合している <input checked="" type="checkbox"/> 平成18年度で廃止・完了	
目標値	結果指標量 180	結果指標量 677
	成果指標量 27パーセント	

総合評価	市として実施すべき事業であり、現時点における事業は順調に進んでいるが、今後事業の内容・方向性を検討する必要がある。	評価区分 <A~E> C
------	---	--------------

平成20年度以降の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する <input checked="" type="checkbox"/> 他の事業と統合を検討する
--------------	---	--

平成20年度以降の改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
有効性	健康増進講習会の内容・対象者・場所等を見直す	平成19年度	参加者の幅が広がり、疾病への理解が深まる